



国際交流員の 活動日誌

» — vol.60 — «



Information

市政だより英語ダイ
ジェスト版を市役所、
総合支所、保原駅、梁
川駅で配布しています。

「東日本大震災」

Great East Japan Earthquake

日本の3月は忙しく、卒業や引っ越しなどの人生を変える出来事が多いです。福島県民の中で、11年前の3月に人生が変わった人が多いと思います。僕もその一人です。

2011年3月11日14時46分に僕は桑折町の半田醸芳小学校の職員室にいました。激しい揺れで机の下に隠れながら、人生はこれで終わりだと思いました。その後の余震も怖かったです。最も怖かったのは翌日のニュースです。国内の放送局によると、県内の原発の状況が不安定だと聞

きました。僕は海外の放送が聞ける短波ラジオを持っていたので、英国のBBCの放送も聞きました。科学者は、炉心溶融はすでに起きたと言っていました。その後、米国の国務省から原発事故による避難勧告を伝えられ、家族からもしきりに帰国を頼まれました。しかし、避難は町民の皆さんと一緒にしかなないとすっかり決めていました。日本政府からの避難指示はなかったため、夏休みまで帰国せずに町民と一緒に仕事や復興をがんばりました。

僕の人生は2011年の3月に変まりました。原発事故やコロナウイルスの感染拡大、何があってもずっと福島で皆さんとがんばると決心しました。入学や入社と同じように、その決断は僕の人生を形作っています。皆さまの支援のおかげで、悔いなくその決断に従えて、ありがたく、幸せに思います。(トニー)

地域の魅力 ふる里再発見

都市梁川の発展と歴史 - 3 -

梁川は中世伊達氏の本拠地として機能して以来、現在まで発展・拡充を続けてきました。中世末期には上杉領として上杉家臣、須田長義により都市整備が加えられ、その後、幕領を経て尾張徳川家支藩梁川藩、岩城平藩支配、幕末には松前藩領と移り変わります。

この変遷の中で、梁川の町並みは発展と整備が繰り返されていきます。今回は上杉領時代の梁川についてみていきます。

慶長3年(1598)上杉景勝は、豊臣秀吉の命により越後から会津へ移封となりました。大幅な加増による移封で、上杉景勝は会津120万石の大名となりました。この時景勝は、家臣を各地へ派遣します。梁川に派遣されたのが

須田長義でした。須田家は上杉景勝の義父である上杉謙信に仕え、上杉家中でも2番目の石高を計る家柄でした。景勝の



梁川城復元図(上杉時代)

会津移封に伴い、須田長義は梁川2万石の城代として都市整備を進めることとなります。中でも大きな改修を加えたのが梁川城でした。室町時代から伊達氏の館であった場所を本丸に定め、本丸を中心に改修します。本丸東側には幅20戸を超える大規模な堀を構え、北側には北三ノ丸を設置し、複雑な出入り口を多用していきます。南側には桜館を設け、西側には二ノ丸・三ノ丸を設けました。本丸を取り囲む多様な曲輪や複雑な出入り口は、須田氏の築城技術の高さを示しています。そして、梁川城は、室町戦国時代以来の伊達氏館から戦備えの大規模な城館へと変化していったのです。